

港湾振興便り



2023. 8

第195号

:

目 次

*:**

1 ポートエッセイ — 再生可能エネルギー推進 —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

2 トピック

- 「たてやま海まちフェスタ2023」に参加

(関東地方整備局 千葉港湾事務所)

- 「港フェスタ金沢2023」を開催しました。

(一般社団法人 金沢港振興協会)

- 魚津港で緊急支援物資輸送・被災者輸送等訓練を実施
～「命のみなとネットワーク」形成に向けた取組～

(北陸地方整備局 伏木富山港湾事務所)

- 浚渫兼油回収船「清龍丸」の一般公開を3年ぶりに開催しました

(中部地方整備局 名古屋港湾事務所)

- 姫路港のさらなる活性化に向けて～姫路港国際物流ターミナル整備事業起工式典を開催～

(近畿地方整備局 港湾空港部)

- 「和歌山港まつり花火大会」が4年ぶりに開催されました！

(近畿地方整備局 港湾空港部)

:

1 ポートエッセイ — 再生可能エネルギー推進 —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

:

相変わらず値上げラッシュが続いている。電気料金も資源価格の高騰を理由に値上げとなった。その直接的原因は天然ガス・石油・石炭等の化石燃料の高騰であり、その原因を作った代表的な理由がロシアによるウクライナ侵攻、円安、新型コロナからの世界経済回復といわれている。

日本の発電電力のうち、化石燃料を使用した火力発電電力の割合は約7割と高く、化石燃料に頼らなければならない環境は価格変動リスクを抱える。エネルギー自給率の向上が求められている。

また、化石燃料の燃焼による二酸化炭素発生は、地球温暖化の要因とされている。地球温暖化防止には、脱炭素が不可欠であり、全世界的にカーボンニュートラルを目指す動きが加速している。

そのような中、洋上風力発電の導入拡大を目指す国は、「海洋再生可能エネルギー発電設備の整備の利用に係る海域の利用の促進区域」として新潟県の村上市沖及び胎内市沖を指定した。

洋上風力発電設備は、重工長大な資機材を扱うことのできる耐荷重、広さを備えたふ頭が必要となる。そこで新潟県は洋上風力発電部材の輸送のための大型貨物船に対応した岸壁の水深、洋上風力発電設備の組立、保管用の用地を確保した上で新潟港の基地港湾指定を国へ要望し、本年4月に全国で5港目の基地港湾に指定された。

洋上風力発電の建設拠点となる基地港湾は、かなりの物資の量が想定されることから港湾の更なる活性化につながるのではと期待する。

また、新潟港では脱炭素化に向けてのカーボンニュートラルポートの形成を目指し、水素や燃料アンモニア等の利活用方策等について検討が行われている。

新潟市でも 2050 年ゼロカーボン実現を目指し取り組みを進めていて、取組項目の一つに再生可能エネルギーの導入がある。新潟市は再生可能エネルギーの導入ポテンシャルを考慮し、太陽光発電と風力発電を中心に導入を進め、地中熱などの熱利用も推進していく。

近年、地球温暖化による異常気象が各地で発生し、豪雨、台風、猛暑の被害が頻発し、毎年繰り返されている。

この豊かで美しい地球を後世に残していくためにも積極的に取り組んで行きたい。

:

2 トピック

:

●「たてやま海まちフェスタ2023」に参加

(関東地方整備局 千葉港湾事務所)

令和5年7月22日(土)23日(日)、たてやま海まちフェスタ実行委員会、館山市主催の「たてやま海まちフェスタ2023」が開催されました。千葉港湾事務所では、清掃兼油回収船「べいくりん」船内見学会やPRを実施しました。

「たてやま海まちフェスタ」は、昨年、多数の来場者で混雑したことに配慮して、初めて2日間の分散開催となりました。千葉港湾事務所の清掃兼油回収船「べいくりん」は館山港耐震強化岸壁に着岸し、船内(ブリッジ、ごみ回収装置、油回収装置)の見学や、ブーステントでのパネル展示を行い、海上物流の支障となる浮遊ごみ撤去、油流出災害時の油回収の任務などを説明し、東京湾での海洋環境整備事業のPRを行いました。

終日晴天と天候に恵まれ、約240名に見学いただきました。見学者は「べいくりん」の性能や日々の業務について熱心に聞き入り、また、スキッパーが動く姿に驚かれていました。見学者には、フェスタ参加により東京湾での「べいくりん」の活動や海洋環境整備事業についての理解を深めていただきました。



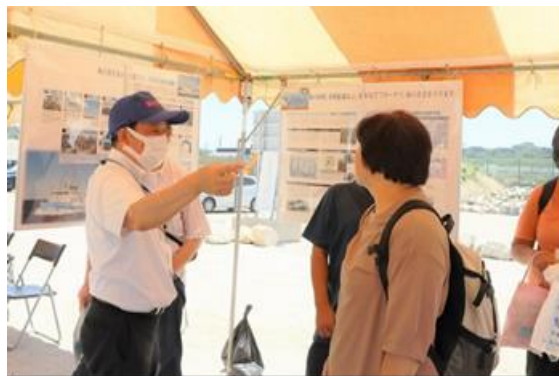
操舵室では副所長がべいくりんを紹介



大迫力のスキッパーはシャッターチャンス



デッキでは船員が見学者の質問に対応



パネル展示では所長の説明に興味津々

●「港フェスタ金沢2023」を開催しました。

(一般社団法人 金沢港振興協会)

令和5年7月15日(土)、金沢港クルーズターミナルにおいて、「港フェスタ金沢2023」を開催しました。当イベントは、港への理解促進や賑わい創出を図るため、例年「海の日」前後に開催しているものです。

イベントでは、海上自衛隊護衛艦「ふゆづき」及び海上保安庁巡視船「のと」の一般公開や国土交通省所有船による港内見学のほか、「みなとオアシス金沢港」の構成施設など港の主要施設を巡るバスツアーや地元の子供たちによるマーチングバンドなどのステージイベント等が行われました。

当日は天気にも恵まれ、1万2000人もの方々が来場し、金沢港が大いに賑わいました。



海上自衛隊護衛艦等の一般公開の様子



ステージイベントの様子

●魚津港で緊急支援物資輸送・被災者輸送等訓練を実施
～「命のみなとネットワーク」形成に向けた取組～

(北陸地方整備局 伏木富山港湾事務所)

令和5年7月25日(火)、魚津市「命のみなとネットワーク」推進協議会は、魚津港において、発足後初となる緊急支援物資・被災者の輸送等訓練を魚津市、富山県、富山県港湾建設協会などの協議会メンバーが参加して実施しました。

今回の訓練は、魚津市で震度6弱の強い揺れを観測し陸路が寸断されたとの想定で、村椿魚津市長から当事務所長への支援要請に基づき、当所所有の港湾業務艇「なごかぜ」が飲料水を魚津港まで輸送し、岸壁で荷下ろしして輸送車両に積み込みました。また、ドローンによる被災状況調査や災害協定に基づく応急復旧に係る情報伝達、さらに港湾業務艇による負傷者の輸送など参加者は与えられた役割を認識し災害時における行動を確認しました。

訓練後、村椿市長より「今後も関係機関が力を合わせ、命を守るみなとを築いていきたい」と災害対応能力の向上に向けた抱負を述べられました。



災害支援の情報伝達訓練
(村椿魚津市長(右)、事務所長(左))



港湾業務艇「なごかぜ」による
緊急支援物資輸送訓練

● 浚渫兼油回収船「清龍丸」の一般公開を3年ぶりに開催しました

(中部地方整備局 名古屋港湾事務所)

令和5年7月17日(月・祝)、愛知県豊橋市の三河港神野ふ頭にて開催された「豊橋みなとフェスティバル」にて、名古屋港湾事務所所属の浚渫兼油回収船「清龍丸」の一般公開を3年ぶりに開催しました。

猛暑の中、1,474名の方にご来場いただきました。普段見られない操舵室や甲板を船員の解説付きで楽しんでいただきました。全国に3隻しかない浚渫兼油回収船の役割や重要性の理解促進につながったと思います。「色々な機能があるんですね」「大きくてカッコいい!」といったご感想をいただきました。



三河港に着岸した清龍丸



多くの親子連れがご来場



操舵室の見学



船員による船内説明

●姫路港のさらなる活性化に向けて～姫路港国際物流ターミナル整備事業起工式典を開催～

(近畿地方整備局 港湾空港部)

令和5年7月15日(土)、アクリエひめじ(姫路市)において、姫路港国際物流ターミナル整備事業の起工式典が開催されました。約170名の方々にご出席いただき、出席者から姫路港のさらなる発展に向けて期待の声が寄せられました。

姫路港において、背後地域に進出する企業や生産機能の増強を行う企業などの貨物需要の増大や船舶の大型化に対応するとともに、円滑な陸上輸送を確保することを目的として、令和3年度に「姫路港国際物流ターミナル整備事業」が新規採択されました。

式典は、清水国土交通大臣政務官、齋藤兵庫県知事からの挨拶に始まり、国会議員の方々や清元姫路市長からの祝辞、事業概要説明や地元企業からの期待の声の紹介、セレモニー(鍬入れ式)などが行われ、締めには、尾上姫路商工会議所副会頭から、地域の益々の発展を願う御発声をいただき、盛大な拍手の中閉会となりました。



セレモニー(鍬入れ式)



清水国土交通大臣政務官、
齋藤兵庫県知事による挨拶

地元企業からの「期待の声」

